

株主メモ

事業年度	毎年2月21日から翌年2月20日まで
定時株主総会	毎年5月開催
基準日	定時株主総会・期末配当金／毎年2月20日 中間配当金／毎年8月20日
公告方法	そのほか必要があるときは、あらかじめ公告して定めた日 電子公告により行ないます。 http://www.palemo.co.jp/ ※事故その他やむを得ない事由によって電子公告による公告を することができない場合は、日本経済新聞に掲載します。

株主名簿管理人および
特別口座の口座管理機関

東京都千代田区丸の内一丁目4番1号
三井住友信託銀行株式会社

以前は、旧株式会社鈴丹の株主様の特別口座に関するご照会先は、三菱UFJ
信託銀行株式会社でしたが、三井住友信託銀行株式会社になりました。

株主名簿管理人 愛知県名古屋市中区栄三丁目15番33号
事務取扱場所 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部
郵便物送付先 〒168-0063
東京都杉並区和泉二丁目8番4号
三井住友信託銀行株式会社 証券代行部
電話照会先 ☎ 0120-782-031

株主優待



株主の皆様方のご支援に対する感謝の印といたしまして、毎年2月20日現在の株主名簿に記載された300株以上保有の株主の皆様方に対し、下記のとおり株主様ご優待品を進呈いたしております。

300株以上	1,000株未満	1,000円のクオカード
1,000株以上		3,000円相当のカタログギフト

愛知県ファミリー・フレンドリー企業登録



登録年月日 平成20年2月15日

登録番号 C0024

仕事と生活の調和のとれた働き方ができる職場環境づくりに取り組む
愛知県ファミリー・フレンドリー企業として登録いたしました。

上場株式等の配当等に係る10%（所得税7%、住民税3%）
軽減税率の廃止について

2014年1月1日から上場株式等の配当等に係る10%軽減税率（所得税7%、住民税3%）は廃止され、本来の税率である20%（所得税15%、住民税5%）となりました。
これにより、2014年1月1日から2037年12月31日までは「復興特別所得税」を含め20.315%の源泉徴収税率が適用されます。

株式に関する住所変更等のお届出およびご照会について

証券会社の口座をご利用の場合は、三井住友信託銀行ではお手続きができませんので、取引証券会社へご照会ください。
証券会社の口座のご利用がない株主様は、左記電話照会先までご連絡ください。

特別口座について

株券電子化前に「ほふり」（株式会社証券保管振替機構）を利用されていなかった株主様には、株主名簿管理人である左記の三井住友信託銀行株式会社に口座（特別口座といいます。）を開設しております。

株式関係業務におけるマイナンバーの利用

法令に定められたとおり、支払調書には株主様のマイナンバーを記載し、税務署へ提出いたします。

[主な支払調書]

- *配当金に関する支払調書
 - *単元未満株式の買取請求など株式の譲渡取引に関する支払調書
- マイナンバーの利用範囲には株式の税務関係手続きも含まれます。
株主様は、お取引の証券会社等へマイナンバーをお届けください。



第36期 第2四半期報告書
[2020.2.21.～2020.8.20.]

～ Doing it ～

皆様の豊かさ・成長・満足の実現のために



パレモ・ホールディングス株式会社

証券コード:2778



Withコロナ時代を乗り越え次代の成長に向け、グループの総力を結集してまいります

今期は「中期経営計画」の最終年度であり、基幹事業における収益安定化の総仕上げを行い、新規出店並びにEC事業（ネット通販）の拡大により増収増益基盤の構築に取り組んでまいりました。しかしながら新型コロナウイルス感染症拡大の影響があまりにも大きく、不本意ながら「中期経営計画」を取り下げるに至りましたが、再び永続的安定成長を前提とした歩みを進めるためにも、あらゆる手段を尽くして全社グループをあげてこの難局を乗り越えてまいります。

代表取締役社長 **吉田 馨**

指針

正しい経営
安定成長
ローコスト経営
人財経営

株主の皆様におかれましては、平素より格別のご高配を賜り厚く御礼申し上げます。当社グループ第36期第2四半期報告書をお届けするにあたり、謹んでご挨拶申し上げます。

この第36期第2四半期連結累計期間におけるわが国経済は、新型コロナウイルス感染症の世界規模での拡大に伴い、経済活動が大幅に制限される状況が続く、戦後最悪とも言われる景気の落ち込みを記録しました。また、今後の見通しにつきましても、経済活動のレベルが段階的に引き上げられる動きも見られますが、引き続き感染症の再拡大が懸念されており、依然として不透明感が強い状況が続いております。

当社グループが属する専門店業界におきましては、新型コロナウイルス感染症拡大による外出自粛を背景に、ファッション関連の需要が大きく落ち込むほか、家で過ごす時間を充実させるべく“巣ごもり消費”と呼ばれる需要が急拡大するなど、リアル店舗からネット通販へと消費がシフトしました。

このような環境の中、当社グループにおきましては、これまで今期を最終年度とした中期経営計画に則り、基幹事業の競争力強化を柱に新規出店も積極的に進めてまいりましたが、

新型コロナウイルス感染症拡大に伴い、グループをあげてコスト削減や公的な支援の活用などに注力しつつ、アパレル事業におきましては需給バランスの崩れを修正すべく在庫コントロールの適正化を進め、雑貨事業におきましては衛生関連商品、巣ごもり需要商品の販売に注力するほか、これまで同様に300円均一ショップ「illusie300（イルーシーサンマルマル）」の出店を続けてまいりました。

下半期におきましてもコロナ禍で厳しい経営環境が見込まれる中、お客様と従業員の安全・安心を最優先に感染症対策に取り組みつつ、早期の業績回復と次代の成長に向けた基盤づくりに向け、役員をはじめ社員一同、専心努力してまいります。また、今後も当社グループにおきましては、引き続き企業の社会的使命を重視するとともに、企業統治並びにコンプライアンス体制の強化など、企業価値の向上にも努めてまいります。

株主の皆様におかれましては、今後におきましても当社グループの事業戦略に、より一層のご理解とご支援を賜りますよう心よりお願い申し上げます。

Q1 当第2四半期連結累計期間の業績についてお聞かせください

当第2四半期連結累計期間の業績は、売上高83億71百万円（前年同期比33.1%減）、営業損失7億71百万円（前年同期は営業利益6億34百万円）、経常損失7億66百万円（前年同期は経常利益6億25百万円）、親会社株主に帰属する四半期純損失9億53百万円（前年同期は親会社株主に帰属する四半期純利益5億32百万円）となりました。

当第2四半期連結累計期間におきましては、スタートの3月期から外出自粛に伴う客数の減少が顕在化し、4月の緊急事態宣言発出後は期間中最も売上構成比の高いゴールデンウィーク期間中全店の約6割が臨時休業を余儀なくされたこともあり、5月期の既存店売上高前年同期比は25.2%まで落ち込む結果となりました。その後は緊急事態宣言が解除された6月から7月後半にかけては一旦客数が増える状況が見られましたが、7月後半からは感染者が再び急増し、特に関東都心の店舗を中心に客数が大幅に減少する結果となりました。

このような環境の中で、特にアパレル事業におきましては春先のセレモニー関連商品や夏シーズンの水着・浴衣など主力となるアイテムの需要が極端に落ち込み大きく影響を受けました。

Q2 Withコロナ禍での、下半期施策についてお聞かせください

下半期におきましては、新型コロナウイルス感染症拡大の影響に伴い、これまで取り組んできた「中期経営計画」を取り下げ、業績の回復を図るべくWithコロナ禍を前提とした3つの施策に取り組んでおります。

「営業施策（基幹事業の立て直し）」につきましては、特にアパレル事業の在庫の修復が最優先課題と考えております。レギュラーサイズ業態におきましては、シーズン商品における在庫の修復に向け、滞留在庫の消化を急ぐとともに、コロナ禍における商品動向を慎重に見極め、QR（クイックレスポンス）生産による機動的な商品調達にも努めております。また、ラージサイズ業態におきましても課題となっているシーズンMD（マーチャングाइジング）の最適化に遅れが見られるため、早急に品種別、アイテム別のバランスを修復するとともに、EC事業（ネット通販）の販売強化にも努めてまいります。また、雑貨事業におきましては、引き続きバラエティ雑貨、バッグ業態の抜本的なMD改革を進めるとともに、コロナ禍における衛生関連商品や巣ごもり需要商品に続く、新たな需要の掘り起こしにも取り組んでまいります。

「成長施策（出店戦略、EC販売強化）」につきましては、引き続き300円均一ショップ「illusie300（イルーシーサンマルマル）」の

一方、雑貨事業におきましては300円均一ショップの「illusie300（イルーシーサンマルマル）」やバラエティ雑貨の店舗において、衛生関連商品や巣ごもり需要商品の販売が下支えしましたがアパレル事業の減収の影響が大きく、全社の既存店売上高前年同期比は64.0%と前年を大きく下回る結果となりました。

利益面におきましては、臨時休業も含めた売上の大幅な減少から、在庫の持越しにより商品回転率が悪化するなど売上総利益率が前年に比べ3.6%低下しました。また、売上は大幅な減少となりましたが、人件費はほぼ固定化で発生する中、休業手当分は雇用調整助成金などで補填できましたが、固定賃料等の負担も大きく、営業経費は前年同期比81.1%となり、営業利益、経常利益、親会社株主に帰属する四半期純利益のいずれも大幅な減益、赤字計上となりました。

店舗の出退店におきましては、アパレル事業では「Ludic Park（ルディックパーク）」、雑貨事業では「illusie300」を中心に新規で12店舗を出店する一方で、不採算となっている店舗で退店を検討しておりました店舗をできる限り前倒しで退店するなど、合計24店舗を閉店した結果、当第2四半期末店舗数は475店舗となりました。今期は新型コロナウイルス感染症の影響による消費マインドの低下に加え、商業施設への来館客数の回復も低調であることから新規出店を抑制し、新型コロナウイルス感染症終息後の再成長を見据え、経営効率の更なる改善、基幹事業の競争力強化に注力してまいります。

新規出店を進めるほか、アパレル事業におきましては新規出店を抑制しつつも、催事契約での出店や初期投資を抑えたローコスト型店舗の出店を中心に進めてまいります。また、EC事業（ネット通販）におきましては、引き続き自社サイトの販売を強化するとともに、新しい販路拡大にもチャレンジしており、収益の拡大を図っております。

「コスト削減、人財戦略」につきましては、不採算店舗の閉店をこの下半期に60～70店舗程度実施することにより、固定費の削減に取り組んでまいります。人財戦略につきましても本社、本部人員のスリム化を進め、売上規模に見合った新たな体制を構築するとともに、将来の幹部候補が不足している状況も鑑み、新規採用と現有人財の育成もこれまで以上に強化してまいります。

以上、この下半期におきましては、コロナ禍を前提とした3つの施策にスピード感をもって進めてまいります。終息の目途が立っていない現時点では、引き続き厳しい経営環境が続くものと考えております。こうした中で、当面は少なからず感染症の影響は受けるものの、消費環境は徐々に回復傾向となる予測を前提に、今期の業績予想につきましては、売上高190億円（前年同期比21.1%減）、営業損失9億50百万円（前年同期は営業利益5億4千万円）、経常損失9億60百万円（前年同期は経常利益4億94百万円）、親会社株主に帰属する当期純損失11億60百万円（前年同期は親会社株主に帰属する当期純利益3億50百万円）を見込んでおります。

アパレル事業の概況

アパレル事業におきましては、基幹事業の競争力向上と収益の拡大を目的に、新規ブランドの出店拡大に注力しており、主力3ブランドの店舗数は、前期末の51店舗から56店舗へと増加しました。

当第2四半期連結累計期間におきましては、幅広い顧客のニーズに対応した主力ブランド「Ludic Park(ルディックパーク)」5店舗、既存ブランド「RecHerie(リシェリエ)」2店舗を出店しております。また、これまで雑貨事業で展開しておりました「木糸土(モクシド)・Hare no hi(ハレノヒ)」については、衣料品のウエイトを高めながら収益拡大を進めていくことから、今期よりアパレル事業に移管しております。

ルディックパーク



Ludic Park

遊び心を程よく取り入れた自分らしいファッションを、楽しくセレクトできるショップです。エレガンス・クール・カジュアルまで幅広い客層へ向けた最新トレンドと、着まわしのきくベーシックアイテムをお手頃プライスで提案します。

リルデシュシュ



Lilou de chouchou

いつまでもかわいく輝きたい女性に向けて、毎日のHAPPYを演出します。エレガンスをベースに程よくトレンドを織り交ぜながらON&OFFあらゆるシーンも自分らしく楽しめる上品で女性らしいファッションを提案します。

デイジーメリー



DAISY MERRY

大人の心と少女の心を持ち合わせたい女性に向けて…かわいいただけでなく、どこかボーイッシュ、ほんのりガーリーと、遊び心を取り入れた今欲しいリアルクロースを手頃なプライスで提案します。

リシェリエ



Recherie

「フェミニン」をキーワードに、ベーシックでリラックス感のある大人のカジュアルスタイルを提案します。

木糸土・ハレノヒ



木糸土
木・糸・土の素材を活かし、「無理なく、無駄なく」をコンセプトに、シンプルで飽きのこない生活雑貨を提案します。

Hare no hi
「ナチュラルライフ」をテーマに、アパレル、雑貨をトータルにコーディネート、ライフスタイルを提案します。

ギャルフィット



GAL FIT

「フェミニン&クール」をテーマに、リラックス感のあるカジュアルスタイルとエッジの効いたモードスタイルを提案します。

スズタン



SUZUTAN

「エレガンス&フェミニン」をテーマに、幅広い客層へ最新トレンドと着まわしのきくベーシックアイテムを提案します。

リジェイ・スプル



Re-J
「デイリー&リラックス」をテーマに、ベーシックアイテムとシーズントレンドを程よくMIXした「大人カジュアル」を提案するラージサイズSHOPです。

SUPURE
「フェミニン&カジュアル」をテーマに、上品さと着心地を大切にラージサイズSHOPです。

雑貨事業の概況

雑貨事業におきましては、300円均一ショップ「illusie300(イルーシーサンマルマル)」の出店が進行しており、前期末の84店舗から89店舗へ増加しております。コロナ禍における収益も安定しており、基幹事業へと成長を遂げております。

当第2四半期連結累計期間においては、「illusie300」5店舗を出店しております。この下半期におきましては、同業他社との競争力強化に向け、更なるMD(マーチャンダイジング)の精度向上と商品供給体制並びに販売スタッフ教育の充実を図ってまいります。

イルーシー300



illusie300

「日常に彩り」をテーマに、300円のプチプライスでライフスタイルを提案します。

シーベレット



Siebelet

「毎日、楽しく」をテーマに、話題性あるファッション雑貨と生活雑貨を提案します。

インセンス



INCENSE

「MY BAGを探す楽しさや、見つけた時の喜びを共有できるBAG SHOP」。自分のスタイルを確立した大人の男女に、「オンリーワン」のバッグを提案します。

アパレル事業ブランド別の状況 (単位:店舗)

	出店	退店	ブランド転換	当第2四半期末店舗数
レギュラー店舗	7	12	1	279
ルディックパーク、9スクエア	5	0	0	44
リルデシュシュ	0	0	0	9
デイジーメリー	0	0	0	4
リシェリエ、ドスチ	2	1	0	38
木糸土・ハレノヒ(※1)	0	0	0	18
ギャルフィット・スズタン他	0	11	1	166
ラージサイズ店舗	0	1	0	35
アパレル事業合計	7	13	1	314

雑貨事業ブランド別の状況 (単位:店舗)

	出店	退店	ブランド転換	当第2四半期末店舗数
イルーシー300	5	1	1	89
シーベレット	0	6	△1	35
インセンス	0	4	0	25
雑貨事業合計	5	11	0	149
複合店(※2)	0	0	△1	12
全社合計	12	24	0	475

(※1) 今期より「木糸土・ハレノヒ」をアパレル事業に含んでおります。
(※2) 複合店とは、アパレル事業、雑貨事業のブランドを複数合わせた店舗です。

四半期連結財務諸表

四半期連結貸借対照表

(単位:百万円)

	当第2四半期連結会計期間末 (2020年8月20日現在)	前第2四半期連結会計期間末 (2019年8月20日現在)	前連結会計年度 (2020年2月20日現在)
■資産の部			
流動資産	5,875	6,057	5,525
固定資産	5,625	5,971	6,151
有形固定資産	1,482	1,307	1,486
無形固定資産	132	30	146
投資その他の資産	4,009	4,633	4,518
資産合計	11,500	12,029	11,677
■負債の部			
流動負債	6,372	6,172	5,117
固定負債	2,374	1,834	2,784
負債合計	8,746	8,006	7,902
■純資産の部			
株主資本	2,723	4,003	3,749
資本金	100	100	100
資本剰余金	1,979	1,979	1,979
利益剰余金	647	1,927	1,673
自己株式	△3	△3	△3
新株予約権	30	19	26
純資産合計	2,753	4,022	3,775
負債及び純資産合計	11,500	12,029	11,677

四半期連結キャッシュ・フロー計算書

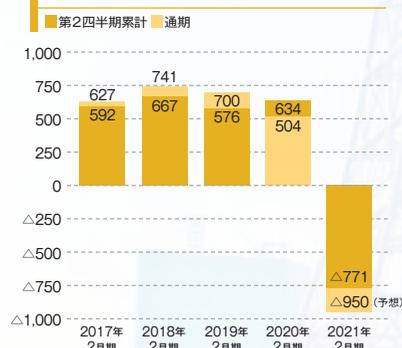
(単位:百万円)

	当第2四半期連結会計期間 [2020年2月21日から 2020年8月20日まで]	前第2四半期連結会計期間 [2019年2月21日から 2019年8月20日まで]
③ 営業活動によるキャッシュ・フロー	△1,820	158
④ 投資活動によるキャッシュ・フロー	△43	△236
⑤ 財務活動によるキャッシュ・フロー	1,563	△167
現金及び現金同等物の増減額	△300	△244
現金及び現金同等物の期首残高	2,244	2,473
連結の範囲の変更に伴う現金及び現金同等物の増減額	—	77
現金及び現金同等物の四半期末残高	1,943	2,306

売上高 (百万円)



営業利益(損失) (百万円)



親会社株主に帰属する

四半期(当期)純利益(損失) (百万円)



四半期連結損益計算書

(単位:百万円)

	当第2四半期連結会計期間 [2020年2月21日から 2020年8月20日まで]	前第2四半期連結会計期間 [2019年2月21日から 2019年8月20日まで]	前連結会計年度 [2019年2月21日から 2020年2月20日まで]
① 売上高	8,371	12,506	24,084
売上原価	4,001	5,529	10,714
売上総利益	4,370	6,977	13,370
販売費及び一般管理費	5,141	6,343	12,865
② 営業利益又は損失(△)	△771	634	504
営業外収益	15	12	17
営業外費用	10	21	27
経常利益又は損失(△)	△766	625	494
特別利益	168	1	1
特別損失	294	34	112
税金等調整前四半期(当期)純利益又は純損失(△)	△891	592	383
法人税、住民税及び事業税	11	51	24
法人税等調整額	50	8	9
親会社株主に帰属する四半期(当期)純利益又は純損失(△)	△953	532	350

POINT

- 売上高は、前年同期に比べ41億35百万円減少の83億71百万円となりました。これは主に、新型コロナウイルス感染症に伴う臨時休業により、既存店売上高前年同期比が64.0%にとどまったことに加え、不採算店舗閉店による店舗数減少によるものです。
- 営業利益は、前年同期に比べ14億5百万円減少の7億71百万円の損失となりました。これは主に、売上高減少による要因と、それによる滞留在庫の処分により、売上総利益率が前年同期比3.6%低下したことによるものです。
- 営業活動によるキャッシュ・フローは、前年同期に比べ19億79百万円減少の18億20百万円の支出となりました。これは主に、税金等調整前四半期純損失8億91百万円や仕入債務の減少5億14百万円などの計上によるものです。
- 投資活動によるキャッシュ・フローは、前年同期に比べ1億92百万円増加の43百万円の支出となりました。これは主に、差入保証金2億89百万円の回収による収入があったものの、有形固定資産1億98百万円の取得や差入保証金77百万円の差入などの支出によるものです。
- 財務活動によるキャッシュ・フローは、前年同期に比べ17億30百万円増加の15億63百万円の収入となりました。これは主に、短期借入金17億円の借入によるものです。

企業データ

会社概要 (2020年8月20日現在)

社名 パレモ・ホールディングス株式会社
 設立 1984年11月22日
 資本金 1億円
 本社所在地 〒450-0002 愛知県名古屋市中村区名駅五丁目27番13号 名駅錦橋ビル6F
 従業員数 2,691名(グループ含む)
 (ナショナル社員159名、エリア社員他2,532名)
 事業内容 事業子会社の経営管理等
 ホームページ <http://www.palemo.co.jp/>

役員 (2020年8月20日現在)

代表取締役社長 吉田 馨
 専務取締役 永井 隆司
 取締役 福井 正弘
 取締役 竹中 幹雄
 取締役 永田 昭夫
 取締役 赤塚 憲昭
 常勤監査役 土田 新一郎
 監査役 平岡 繁
 監査役 今枝 剛
 監査役 川口 直也

注: 取締役のうち、永田 昭夫、赤塚 憲昭の両氏は社外取締役であります。
 監査役のうち、今枝 剛、川口 直也の両氏は社外監査役であります。

株式情報 (2020年8月20日現在)

発行可能株式総数	27,360,000株
発行済株式の総数	12,051,384株
単元株式数	100株
株主数	10,074名

大株主 (2020年8月20日現在)

株主名	持株数(千株)	持株比率(%)
エンデバー・ユナイテッド・パートナーズ・スリー投資事業組合	4,493	37.28
個人株主A	1,115	9.25
株式会社SBI証券	581	4.82
パレモ従業員持株会	214	1.78
個人株主B	136	1.12
株式会社三菱UFJ銀行	130	1.07
個人株主C	75	0.62
個人株主D	70	0.58
楽天証券株式会社	67	0.55
個人株主E	66	0.55

株主構成 (2020年8月20日現在)

